

平成 28 年度

平成 25 年度 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」選定取組

UDCN 並木ラボ

活動記録集

2017 年 3 月

■概要	1
○UDCN 並木ラボはこんな場所です	
○UDCN 並木ラボの目指す姿事業概要	
■公開講座	5
○都市デザイン連続講座 第5回	
「～六大事業のひとつ～金沢シーサイド地区の過去・現在・未来を知る！」	
■研究活動	7
○郊外住宅地の再生に関する研究	
・国際総合科学部国際都市学系まちづくりコース卒業論文	
「交流パターンの違いに見る近居の意向と地域との関係性に関する研究	
－金沢シーサイドタウンを事例に－」	
・国際総合科学部国際都市学系まちづくりコース学生による自主研究	
「活動地域活動拠点運営についての調査／並木ラボ運営に関する提言	
-UDCIC@福岡、CC ラボ@洋光台、UDCN 並木ラボ」	
■医学部主催企画（※チラシなど掲載しているものに「*」印）	13
○「健康づくり出前講座」（医学部医学科） *	
○健康づくり出前講座 DVD 貸出開始 + “出張”健康づくり出前講座	
○並木保健室・前向きシリーズ + “出張”並木保健室 *	
■地域住民による企画（※チラシなど掲載しているものに「*」印）	19
○五知縁かふえ＋読み聞かせ＋民話の旅 *	
○ハーブ教室 *	
○暮らしの相談室（ライフコンシェルジュ） *	
○並木こども哲学 *	
○パソコンなんでも相談室	
○スクラップブック lesson シリーズ	
○クリスタルコーティング（一般社団法人日本シングルマザー支援協会） *	
○出張コミハ（並木コミュニティハウス）	
○スタンプラリー用スタンプ作成（センター名店会）	

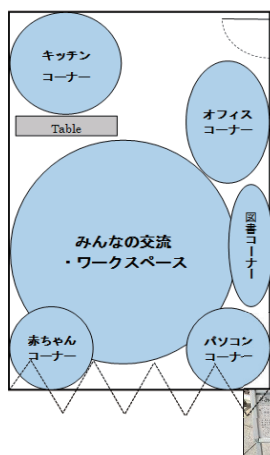
■学生による地域貢献企画（※チラシなど掲載しているものに「＊」印）	27
○なみキャン ＊	
○コミュフェスでのラボ開放と出店	
○サマーフェスタでのラボ開放と出店 ＊	
○リアル金沢統一ゲーム～ハロウィン仮装パレード～ ＊	
○バレンタインラッピングづくり ＊	
■これからの並木を創る会との協働企画（※チラシなど掲載しているものに「＊」印）	32
○まちづくりデザインゲーム・並木版 活用プロジェクト ＊	
－@PIA フェスタ、@金沢総合高校、with 逗子開成高校－	
○星空観望会（横浜市大天文部）	
○親子で楽しく並木クイズウォーク～楽しみながら並木の魅力を知ろう～ ＊	
■今後に向けて	41
○横浜金沢シーサイド地区のエリアマネジメント体制構築に向けて	

『UDCN 並木ラボ』はこんな場所です！

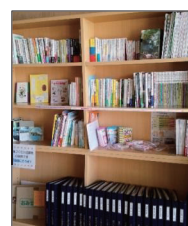
金沢シーサイドタウンは、今後高齢化の進行や人口減少に伴う大きな変化が予想されています。一方で、積極的な都市デザイン、水や緑の豊富さ、これまでに築かれてきたコミュニティなどにより、今日でも魅力的なまちです。だれもが住みたい・住み続けたいまちとして魅力を高め、これからの時代に備えたい。そのような考えから横浜市立大学では「地域拠点」を開設し、2014年3月よりオープンしています。※文部科学省による「地(知)の拠点整備事業」(2013年度より5年間)採択事業の一環です。

なにをやるの？ どんな場所なの？

地域の皆様が気軽に集える、
コミュニティに貢献する場を目指しています！



① 普段は、自由に図書閲覧ができ、談話スペースとして使えます。ノートパソコンの利用も可能(無線LAN)。地域活動の集まりなどにお使いください。

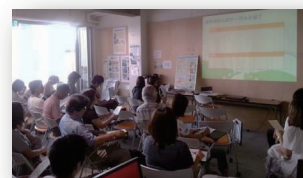


② 27年7月から新しく「五知縁かふえ」というコミュニティカフェも始まりました。その他にも運動講座、読み聞かせ、くらしセミナーなど、地域の方の持込み企画も実施中。



③ 横浜市立大学のサテライトオフィス(調査研究の発表・情報発信の場)として利用し、健康づくり講座なども実施しています。

④ 公開授業(まちづくり実習、市民まちづくり論特講など)も行っており、一般の方も見学可能です！



将来は自立的に運営されるよう、地域と市大の協働運営の可能性を探っています。

どこにあるの？

金沢センターシーサイド名店会
(並木一丁目17 船だまり脇の商店街)



Tel/Fax: 045-349-5665
<https://www.facebook.com/namiki.ycu>

いつ開いているの？

ここでの掲示やチラシ、Facebookでスケジュールを公開しています。お気軽にお問い合わせ下さい。

募集しています！

運営に協力していただける方！
イベントやサービスの持込み企画！
お気軽にスタッフにおたずねください。



月間スケジュール



更新日 2017年2月28日

曜日	月	火	水	木	金	土	日
開館時間			1 10時～17時	2	3	4 10時～15時	5 10時～12時
イベント等			10時～15時 ハーブレッスン 15時～17時 なみキャン	休館日	休館日	10時～15時 ハーブレッスン	
開館時間	6 10時～12時 19時～20時	7 12時～17時	8 10時～17時	9 13時30分～15時	10 12時～15時	11 10時～15時	12 10時～12時
イベント等	10時～12時 並木保健室 19時～20時 ラボの会		10時～15時 クリスタルヒーリング 15時～17時 なみキャン	13時30分～15時 前向き終活講座	13時～15時 健康づくり出前講座	10時～15時 ハーブレッスン	
開館時間	13 10時～12時	14 10時～17時	15 10時～17時	16 10時～12時	17 13時～14時30分	18 10時～12時 13時30分～15時	19
イベント等	14時～15時 貸し切り	13時～17時 パリラなんでも相談室	10時～15時 ハーブレッスン 15時～17時 なみキャン		13時～14時30分 頭と身体の健康 チェック講座	13時30分～15時 並木こども哲学	休館日
開館時間	20	21	22 10時～15時	23 10時～15時	24 10時～17時	25 13時30分～15時	26
イベント等	休館日 春分の日	休館日	10時～11時30分 前向き子育て講座 10時～15時 ハーブレッスン		13時～15時 健康づくり出前講座	13時30分～15時 環境講座	休館日
開館時間	27 13時～17時	28 13時～17時	29 10時～15時	30 10時～17時	31 15時～17時		
イベント等		13時～17時 パリラなんでも相談室	10時～15時 ハーブレッスン				

★イベント開催時以外の一般利用については、ご相談ください。

★17時から18時は休憩時間のため、一時閉館させていただきます。ご了承ください。

「健康づくり出前講座」は別会場で開催

2017年3月 サテライト・ラボオープン予定 スタッフ表



2017/2/28

主な担当スタッフ

変更になることがあります。更新日をご確認ください。
開館時間が変わる日がありますので、ご注意ください。

日	曜日	午前 (10~12時)	午後 (12~15時)	午後 (15~17時)	夜 (18~20時)	
1	水	王子	王子・小林(奏)	鈴木・山本		
2	木	休館日				
3	金	休館日				
4	土	王子	王子			
5	日	小舟戸・森本				
6	月	伊藤			(19時~)三輪	
7	火		三輪	三輪		
8	水	クリス	水谷	菅野・鈴木・山本		
9	木		伊藤			
10	金		クリス			
11	土	王子	王子			
12	日	小舟戸・森本				
13	月	中西・八重嶋	小舟戸・森本			
14	火	三輪(~13時)	(13時~)新井	新井・亀岡		
15	水	王子	王子	山本		

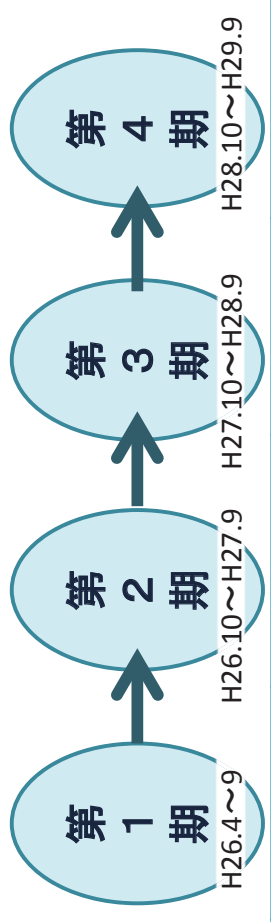
日	曜日	午前 (10~12時)	午後 (12~15時)	午後 (15~17時)	夜 (18~20時)	
16	木	原				
17	金		(13時~)有本			
18	土	小舟戸・森本	(13時30分~)笹浪・五十嵐			
19	日	休館日				
20	月	休館日				
21	火	休館日				
22	水	大河内(~11時30分)・王子	王子			
23	木	三輪	三輪・菅野			
24	金	久田	久田	中西・天野		
25	土		二村			
26	日	休館日				
27	月		(13時~)三輪	三輪		
28	火		(13時~)新井	新井		
29	水	王子	王子			
30	木	三輪	三輪・(13時~)中西	三輪・中西		
31	金			亀岡		

横浜市立大学COC事業 UDCN並木ラボの目指す姿

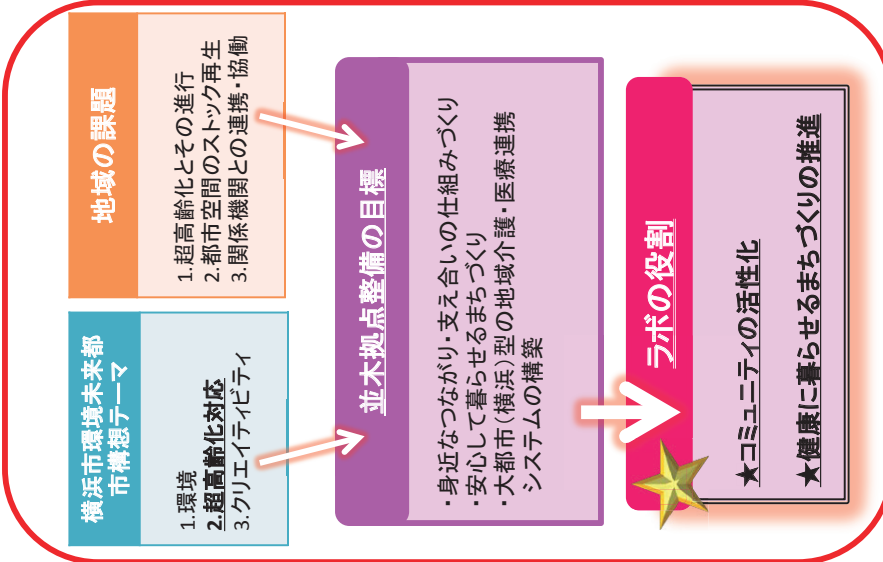
COC事業終了時に
目指す目標

- ① 金沢STが将来
目指す姿の明確化
とその実現のため
に必要な取組の開
始
 - ② ①の取組を推
進する上での拠点
の役割・運営主体・
財源等の明確化)
- (地域主体等との共
同運営によるラボ存
続は目指すが、代
替手段も含めて検
討)

今後の展開予定



全体	住民へのラボの存在 浸透	ラボの活動拡大・充実お よび住民の自律的活動 促進	金沢STの目指す姿・ ビジョン検討・作成	地域ビジョンおよび 今後の活動方針確 定
活性化の 健康に暮 らせる街	・可能な限り拠点オー プン ・様々なイベント実施 ・今後の可能性を模索 ・積極的な住民・地域 主体の模索 ・団地の空室活用検 討	・ラボの役割に沿った取 組を推進 ・全学的な教員の参画促 進 ・「これからの並木を創る 会」と連携した、活性化 に資する調査・活動 ・住民・地域組織から拠 点活動に参画するサ ポーターを増やす ・団地の空室活用開始	・「これからの並木を 創る会」や住民サ ポーターとの連携 ・金沢STのあるべき 姿(ビジョン)の検討・ まとめ	・第3期でまとめたビ ジョンをもとに、行政・ 地域主体等関連主 体と協議し、活動の 明確化・継続を働き かける



- ### ラボでの具体的活動
- 地元組織(主として、これからの並木を創る会、名店会)との連携
 - 情報発信(都市デザイン連続講座)
 - 地域への提案(学生による実習授業の成果発表表など)
- ### ★コミュニティの活性化
- ・談話・休憩スペースの提供
 - ・まちづくりに関する図書、住宅地図等閲覧
 - ・まちのオフィス機能提供
 - ・赤ちゃんコーナー提供
 - ・PC利用者相談への対応
 - ・コミュニティカフェの試験的営業
 - ・イベント・セミナー等開催
- ### ★健康に暮らせるまちづくりの推進
- ・医学科による健康に関する講座の開催(健康づくり出前講座)
 - ・看護学科による健康に関する相談会等の開催
 - ・健康づくり出前講座の無料DVD貸出
 - ・血圧計の設置
 - ・よこはまウォーキングポイント リーダー設置



～六大事業のひとつ～

金沢シーサイド地区の過去・現在・未来を知る！

2017年

2月7日 (火)
13時～17時

【会場】

横浜市立大学金沢八景キャンパス
YCUスクエアY401教室

※下記、地図参照
(レクチャーの後、金沢シーサイド地区の見学あり)

【講師】

中津秀之
(関東学院大学建築・環境学部准教授)
中西正彦
(横浜市立大学まちづくりコース准教授)

横浜市立大学都市デザイン連続講座

1978年に入居が始まった金沢シーサイドタウンでは、豊かな自然環境の創出と歩行者専用道のネットワーク、建築家を登用した個性的な建築など、当時、最先端の都市デザインの導入が行われました。

横浜市立大学では、金沢シーサイドタウン内にまちづくりの拠点UDCN並木ラボを設置し、当時の都市デザインの取組を振り返る講座を毎年度実施しており、今回はその5回目に当たります。

金沢シーサイドタウンの都市デザインを振り返り、その空間としての資産を再認識することで、これからのまちづくりにつなげていきましょう。

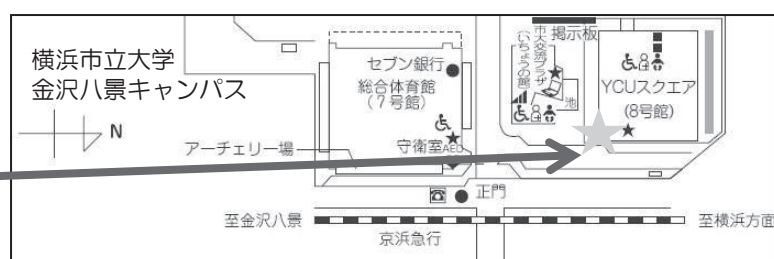
【第4回 現地見学会の様子】



- ◇受講料 無料 ※移動の際の交通費は実費負担
- ◇申込方法 氏名・所属・連絡先メールアドレスを明記し、下記メールまたは応募フォームからお申し込みください
- ◇申込先 横浜市立大学 地域貢献担当 coc@yokohama-cu.ac.jp
(横浜市金沢区瀬戸2-2-2 横浜市立大学金沢八景キャンパス内)
- ◇主催 公立大学法人 横浜市立大学

会場

横浜市立大学
金沢八景キャンパス
YCUスクエア4階
Y401教室



応募フォーム
QRコード



主 旨

金沢区のシーサイド地区は、横浜市の六大事業（1965年提唱）のひとつとして埋め立てが行われ、他の事業と連携しつつ市内の産業の集約が進められました。今日では市内でも重要な位置を占める産業団地が形成されています。同時に先進的なアーバンデザインの手法を用いた住宅地「金沢シーサイドタウン」や、海の公園・八景島といった環境・アミューズメント施設の整備も行われ、様々な観点から重要な地区となっています。

社会状況も変化していく中で、事業開始から50年近く経つ当地区の現在はどのようなものでしょうか。また、そこではどのような活動と今後への取り組みが行われているのでしょうか。

レクチャーに加え、実際に地区内と様々な主体の活動を視察し、意見交換を行います。



視 察 対 象 地

金沢シーサイドタウン

横浜市金沢区
並木1丁目～3丁目

最寄駅

京浜急行線 京急富岡駅 シーサイドライン 並木北駅
並木中央駅
幸浦駅



ス ケ ジ ュ ー ル

- 13:00～14:00 レクチャー（金沢地先埋立事業の概要・産業団地および住宅地区の現状等）
- 14:30～ 現地視察・意見交換
- ・シーサイドラインで移動しながら、各事業者より現地の説明
 - ・並木ラポにて各事業者より取組の紹介
 - ・将来に関する意見交換
- 17:00 現地解散



シーサイドライン

交流パターンの違いにみる近居の意向と地域との関係性に関する研究 -金沢シーサイドタウンを事例に-

Study on intension of Living Proximity focused on difference in pattern of interchange and relationship of local residents -Case of Kanazawa seaside town-

130710 横山 由美菜
指導教員 三輪 律江

1. はじめに

近年、生活スタイルや意識の違い等を理由に、同居よりも近居を理想的だと考える人が増えている。近居は世代間の助け合いを可能にし、社会的問題の改善に繋がるとして注目され、UR都市機構では近居割や近居割ワイドといった近居を促進する仕組みを設けるなど、その期待が高まっている。

2015年度の船木による研究^{文1)}では、近居による世代間交流は子育て支援につながる一方、シニア世代にとっては負担感や地域活動参加への制約になっているのではないかという観点から近居親族との交流実態について分析を行ったが、シニア世代はむしろ、同居にはない「ちょうど良い」距離感を感じ、近居親族との交流に対してプラスイメージを抱きやすいことが示唆された。一方で交流による負担感も確かに存在し、そこには近居親族との交流内容や距離関係の違いといった、関わり方の違いが影響しているように思われるが、それに関しては明らかにされていない。

そこで本研究では、調査対象をシニア世代から全世代へ拡充したアンケート調査を実施し、先行研究同様、金沢シーサイドタウン（以下、金沢ST）を事例に近隣住民との交流や地域活動の有無といった地域との関係性と、近居親族との2者間交流の内容の2点に着目して近居の実態について整理する。その上で、近居をしている人々を対象に、日常的な交流の仕方や居住地の距離関係など複数の項目から近居のパターンを分類し、近居に対する意向や心理的距離感について改めて検証する。

2. 研究の概要

2-1. 研究対象地域の概要

横浜市の統計^{文2)}によれば、並木1丁目や並木2丁目では横浜市全体よりも高齢化率が15%以上高い(図1)。一方で、同じく横浜市の統計^{文2)}によると、金沢区の家族類型別世帯数は、2010年度時点で横浜市全体と比較して単身者の割合が4.1%低く、子供のいる世帯の割合が2.8%高い。また、2014年度の西田による子育て世帯の日常生活に関する調査^{文3)}により、金沢区の子育て世帯の42.0%が居住地選択の理由として「親もとの近くにある」ことを挙げており、その割合は同調査を行った青

葉区、西区と比較して最も高いことが示された。以上より、並木地区は高齢者が多い一方で子育て世帯も多く、子育て世帯については近居を目的に当地区へ居住している可能性が高い。

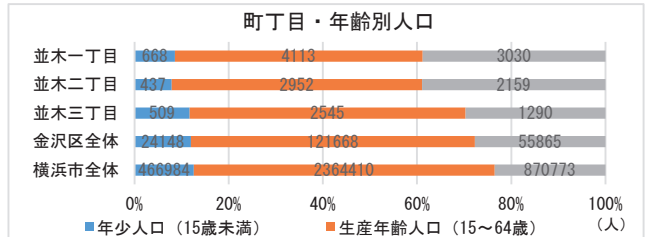


図1. 並木1~3丁目と金沢区・横浜市の年齢別人口^{文3)}

2-2. 研究の方法

本研究では先行研究を引き継ぎ、対象地域を金沢ST内並木1~3丁目とし、対象地域内のUR賃貸住宅居住者と横浜市営住宅(賃貸)居住者に向けて各世帯へ1部ずつアンケートを配布した。

アンケート構成は①回答者の基本属性、②現在の住まいの居住歴、③近居の有無と近居親族の基本属性、④近居による交流実態と意向、⑤将来の住まい方の意向、⑥近隣地域との交流状況である。アンケート結果から近居の有無と地域交流の関係や、回答者の属性と近居親族との交流内容との関係について分析を行った。ここでは「3親等以内の親族が金沢ST内またはその周辺に住んでいること」を「近居」として分析した。

3. 金沢STにおける近居実態の整理

3-1. 金沢STにおける近居の状況

アンケートは並木1丁目・2丁目・3丁目に所在するUR賃貸住宅へ1786部と、並木1丁目に所在する横浜市営住宅へ605部の計2391部をポスティング配布し、郵送により351部の返答があった(回収率14.7%)。そのうち「近居をしている」とした回答者は74人(21.1%)であった。東京近郊の賃貸住宅団地で行われた近居の調査^{文4)}では、団地内に子育て世帯が住んでいるとした世帯が1割強となっており、金沢STでは他の団地よりも近居が進んでいる可能性が示唆された。

アンケート回答者の年齢は60代以上が6割以上で、近居の有無によって構成に大差はない(図2)。

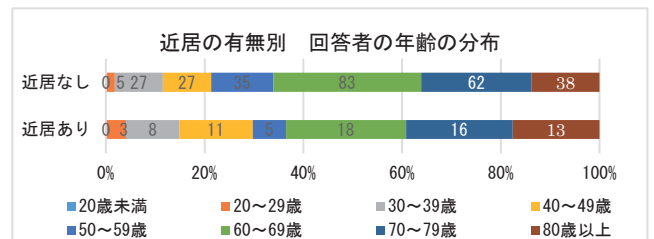


図2. 近居の有無別回答者の年齢

3-2. 近居の有無と地域交流の関係性

近隣住民との関係性について、日常的に交流をしたり、何かあった時に頼れる近隣住民が「いる」とした回

答者の割合が、総じて近居をしている回答者のほうが多く、近居をすることが近隣住民との関係に何らかの影響を与えていることが考えられる(表1)。

表1. 近居の有無別近隣住民との関係性

	困ったときに相談できる人がいる				合計
	いつもいる	時々いる	いない	NA	
近居あり	25 33.8%	16 21.6%	24 32.4%	9 12.2%	74 100.0%
近居なし	48 17.3%	63 22.7%	149 53.8%	17 6.1%	277 100.0%
合計	73 20.8%	79 22.5%	173 49.3%	26 7.4%	351 100.0%

**

一方、自治会など地域活動の参加数は、近居をしている回答者では「0個」(74人中30人)が最も多く、「1個」と「2個」(いずれも74人中18人)が続いた。一方で近居なしでは「1個」(277人中98人)が最も多く、「0個」(277人中86人)が続き、近居をしている回答者の方が地域活動に消極的なことが示唆された(図3)。

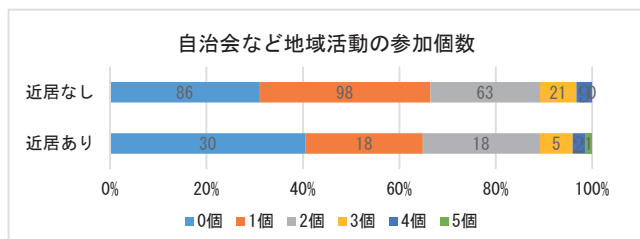


図3. 近居の有無別地域活動の参加個数

3-3. 近居をしている回答者の基本属性

近居をしている回答者の年代、同居の家族構成と近居親族の続柄の関係から回答者を大類した結果が表2の「年代・家族類型」である。類型別に近居親族の居住地との関係^{注1)}、居住歴、近居のきっかけを見ると、子世代やシニア世代の中でも子や孫の有無によって近居の背景に差異が見られた。以下、その詳細を示す。

まず、シニア世代の回答者について、類型①-1では、「同居」が16人中4人であり、他の類型よりも同居の割合が高かった。居住年数は30年以上が半数以上を占め、近居のきっかけに「緊急の事態が心配だから」(8

人)が最も多いことから世代間の助け合いを期待して子世代が住み戻った傾向が示唆された。類型①-2では、「丁目内」と「他丁」が19人中14人であり、類型①-1よりも近居親族と距離を置いて近居をしていることが分かった。また、居住年数は5年未満(7人)が最も多く、近居のきっかけに「子育て支援のため」(6人)や「緊急の事態が心配だから」(8人)が目立つことから、子育て支援のため住み戻った背景が浮かび上がった。

続いて子世代の回答者では、類型②-1に同居が3人いた。シニア世代でも孫がいない場合(類型①-1)に同居が多いことから、孫世代の有無が同居に踏み切ることに関係していると考えられる。また、居住年数は5年未満が10人中8人を占め、近居のきっかけに「緊急の事態が心配だから」(7人)が最も多いことから、世代間の助け合いを目的に住み戻ったことが示唆される。そして、類型②-2では「丁目内」と「他丁」で15人中13人を占め、近居親族と距離を置いて近居していることが分かる。居住年数は5年未満が過半数を占め、近居のきっかけに「子育て支援のため」(10人)や「地域になじみがあるから」(7人)が多いことから、シニア世代による子育て支援を期待して住み戻りをした背景が示唆された。

3-4. 近居親族との交流実態

船木の先行研究より、孫のいるシニア世代は孫に合わせて外出先を変えていると示唆していることから、子や孫の存在が回答者の活動に影響を与えると仮説を立て、孫世代の有無に重点を置くために、表2の年代・家族類型の類型①-3、①-4、②-3を合わせて「その他」(類型③)に分類し直した(表3)。その上で、類型別に近居親族との交流頻度^{注2)}や交流内容の項目数(交流多様性)、外出場所数を整理した。以下詳細を述べる。

まずシニア世代の回答者では、類型①-1、類型①-2

表2. 回答者の年代・家族類型別基本属性

年代・家族類型※	組数	居住地間距離関係(n=74)					居住歴(年)(n=74)					近居のきっかけ(n=141)											
		同居	棟内	街区内	丁目内	他丁	NA	~4	5~9	10~19	20~29	30~39	40~	気軽に顔を 見に行ける から	緊急の事態 が心配 だから	地域に なじみ がある から	子育て 支援 のため	介護 のため	家事の継承 や手伝いの ため	賞賛等 特典や援助 があるから	親族に近居 を勧められた から	他に理由 はない	その他
①-1 子世代-シニア世代	16	4	1	1	6	4	0	2	2	1	2	8	1	5	8	1	1	2	1	0	1	5	1
①-2 孫世代-子世代-シニア世代	19	0	0	3	6	8	2	7	1	4	1	6	0	6	8	4	6	1	1	0	4	1	4
①-3 孫世代-子世代-シニア世代 近居親族	8	1	0	4	2	0	1	1	1	3	2	1	0	4	2	0	0	0	0	0	2	1	0
①-4 孫世代-シニア世代	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0
②-1 子世代-シニア世代	10	3	0	0	3	4	0	8	1	1	0	0	0	5	7	2	1	2	2	1	1	3	0
②-2 孫世代-子世代-シニア世代	15	0	0	2	8	5	0	9	2	2	1	1	0	5	6	7	10	1	1	3	0	1	3
②-3 子世代-近居親族	5	0	0	0	3	2	0	2	0	3	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	2	0	2
合計	74	8	1	10	28	24	3	29	7	15	6	16	1	27	31	14	20	6	6	6	10	11	10

※「回答者を近居親族の関係分類」: 二重丸は回答者、丸は近居親族を表す。また、-は近居を、=は同居を示す。

共に交流の場所は「自分の家」がそれぞれ半数以上を占めていた。また近居親族と一緒に出かけ場所数に対して一人で出かける場所数が5カ所程少なく、近居親族と外出を共にする傾向が見られた。対して、交流頻度は類型によって差異が見られた。まず、類型①-1では「ほぼ毎日」が16人中5人で最も多く、近居親族との交流頻度が高い。一方で類型①-2では「週3~4」と「週1」、「月2~3」に5人ずつばらつき、「ほぼ毎日」は1人のみであった。シニア世代では孫世代がいる近居の場合のほうが、ある程度間隔を置いて交流をしており、依存度が低いといえる。

続いて子世代の回答者では、類型②-1、②-2共通して、交流頻度「ほぼ毎日」が最も多く、交流の多様性は「多様性弱」の値が低かった。また、交流の場所は「親族の家」が多いことから、近居親族との交流に積極的であり、近居親族への依存度が高い傾向が示唆された。一方、近居親族と一緒に出かける場所よりも一人で出かける場所のほうが各々10カ所以上多く挙げられており、近居親族と行動圏は分けているといえる。

4. 近居実態のパターン化と定住・同近居意向との関係

4-1. 数量化Ⅲ類・クラスター分析による近居実態のパターン化

交流内容によって負担感はあるという仮説のもと、近居親族との2者間の交流実態と地域交流の2つの“交流”に焦点を絞りパターン化を試みるため、「交流頻度」、「交流内容の種類数(交流多様性)」、「近居親族居住地までの所要時間^{注3)}」「近居親族と一緒に出かける場所数」、「地域活動参加数」、「近隣住民との関係性」の項目を用いて数量化Ⅲ類^{注4)}を行った(図4)。なお、3軸までの累積寄与率は50.7%であった。各軸の上位項目と下位項目の特徴から、第1軸を「近居親族交流深-浅」、第2軸を「地域住民交流あり-なし」、第3軸を「場所性なし-あり」と解釈した。

続いて、数量化Ⅲ類で近居親族との交流内容を定置した結果を基に、3軸までのサンプル得点によるクラス

ター分析^{注4)}を行った(図5)。クラスター分析は非階層型の4階層を採用した。クラスターの中心の最終結果をもとに各クラスターの解釈を行い、クラスター1を「親族交流深・地域交流多」、クラスター2を「親族交流浅・地域交流中」、クラスター3を「親族交流深・地域交流少」、クラスター4を「親族交流浅・地域交流多」パターンと解釈した。

4-2. パターン別にみる意向等との関係

4-1の類型化結果より、パターン別に「定住意向」、「同近居の継続意向」、「近居親族との心理的距離感」(以下3項目を総じて、意向等とする)との関係を整理したものが表6である。意向等との関係を見る前に、パターンと年代・家族類型との関係を確認すると、類型の中でもパターンにばらつきが見られ、類型とパターンが一概に一致するものではないことが示された。

続いてパターンと意向等との関係について詳細を述べていく。まず、パターン①では、「どちらかといえば住み続けたい」(11人)が最も多く、定住意向は高かった。一方で同近居の継続意向では「そうしたくない」「どちらかといえばそうしたくない」が4人、心理的距離感では「やや近すぎる」、「やや遠すぎる」が1人ずつ確認され、他のパターンよりも同近居に消極的である可能性が示された。同じく近居親族との交流が深いパターン③を見ると、定住意向「これからもずっと住み続けたい」が7人、同近居の継続意向「そうしたい」が8人で、ともに他の類型よりも高い数値であった。一方で心理的距離感では「やや近すぎる」が2人確認された。定住意向、同近居の継続意向についてはどのパターンよりも高いものの、心理的距離感に多少の不満を抱いている可能性が示唆された。またパターン①同様、地域交流が多いパターン④をみると、定住意向は『住み続けたい』(「どちらかといえば住み続けたい」、「これからもずっと住み続けたい」の総称)に偏りが見られた。また、同近居の継続意向でも『そうしたい』(「どちらかといえばそうしたい」、「そうしたい」の総称)に偏りが見

表3. 回答者の年代・家族類型別近居の交流内容

年代・家族類型	組数	交流頻度(n=74)							交流多様性(n=74)			交流の場所(n=74)			近居親族と一緒に出かける場所数(カ所)(n=48)	一人で出かける場所数(カ所)(n=48)		
		行わない	月1以下	月2~3	週1	週2~3	ほぼ毎日	NA	多様性弱(0~3種類)	多様性中(4~5種類)	多様性強(6~8種類)	NA	自分の家	親族の家			NA	
① シニア世代																		
①-1	16	0	3	1	4	1	5	2	5	5	4	2	10	1	5	38	30	
①-2	19	1	1	5	5	5	1	1	7	6	5	1	11	6	2	36	30	
② 子世代																		
②-1	10	0	1	2	1	2	4	0	2	6	2	0	4	6	0	20	30	
②-2	15	2	0	0	1	5	5	2	3	7	3	2	1	8	6	41	67	
③ その他(兄弟姉妹との同近居・孫世代との近居)	14	0	3	5	2	0	4	0	7	2	5	0	6	6	2	29	36	
合計	74	3	8	13	13	13	19	5	24	26	19	5	32	27	15	164	193	

られ、どちらの意向も高い傾向が見られた。最後にパターン②では同近居の継続意向『そうしたい』、定住意向『住み続けたい』に偏りがあり、どちらの意向も高い傾向であった。一方心理的距離感では「やや近すぎる」が1人確認され、これは同じく近居親族との交流が浅いパターン④と異なる点といえる。

このように、全体的に母数が少なく信頼性に欠けるが、パターンによって意向等に差異がある可能性が示された。また近居親族と交流が深く、地域交流も多い方が意向等が高いわけではないことが示唆された。但し、全体的に定住意向は『住み続けたい』、同近居の継続意向は『そうしたい』、心理的距離感「ちょうどいい」に偏りが見られ、そもそも金沢 ST では交流の負担感がない回答者が多いと考えられる。先行研究でも近居親族との交流にプラスイメージであることが確認されており、金沢 ST の住環境では負担感のない交流を実現しやすいと考えられるが因果関係については検証が必要である。

5. まとめと課題

金沢 ST の賃貸住宅における近居の実態調査から近居をしている回答者が約 2 割確認され、他の団地と比較して近居が進んでいる可能性を示した。また、近居の有無によって、近隣住民との交流や地域活動への参加数といった地域との関係性に違いがみられた。

そして、近居をしている回答者の中でも、回答者の年代や家族構成の別で近居親族との交流の頻度や交流内容の種類数（交流多様性）、近居親族との外出箇所数に差異が生じることが示唆された。

加えて、近居の実態を「親族交流深・地域交流多」、「親族交流浅・地域交流中」、「親族交流深・地域交流少」、「親族交流浅・地域交流多」の 4 パターンに分類することができた。先行研究同様、金沢 ST では全体的に

交流に対する負担感がない回答者が多い結果が示されたが、パターンによって定住・同近居意向、近居親族との心理的距離感には差異がみられ、必ずしも近居親族と交流が深く、地域交流も多い方が意向等が高いとは言えない可能性が示唆された。

本研究の課題として、自由記述の回答率が低く母数が少なく信頼性に欠ける結果となった点が挙げられる。本調査ではアンケート形式を採用したが、詳細な心象を引き出すためにヒアリング等を実施して交流パターンと意向等との関係性について改めて検証する必要がある。

【謝辞】

本研究にあたり多大なご協力を賜りました、独立行政法人都市再生機構、横浜市建築局のご担当者様に、心より御礼申し上げます。また、アンケートにご協力いただいた皆様には、貴重なお時間を割いて頂きましたこと、深く御礼申し上げます。

【注】

- 1) 近居親族の居住地の質問項目で「同居している」と回答したものを「同居」とし、近居親族の住所が回答者の住所と棟名まで合致したものを「棟内」、街区まで合致で「街区内」、丁目まで合致したものを「丁目内」、それ以外を「他丁」と分類した。
- 2) 交流内容 8 項目（「日常の出来事について話す」、「子・孫育ての援助」、「家事の援助」、「介護をする・される」、「留守番をする・される」、「食事を共にする」、「一緒に外出する」、「私的な行事を行う」）の各頻度のうち、最大値を「交流頻度」として採用する。例えば、1 項目のみ「ほぼ毎日」で他の項目が「行わない」である回答者の「交流頻度」は「ほぼ毎日」となる。
- 3) 回答者と近居親族の居住地の回答より、双方の居住地の直線距離を算出。そこから 80m を 1 分として所要時間を出した。分類は度数分布に基づいて①「4 分圏内」、②「4 分圏外」とした。
- 4) 分析には『エクセル統計 2016』を用いた。

【主要参考文献】

- 1) 船木 蒼子『孫世代とシニア世代の日常的な外出と地域交流に関する研究～金沢シーサイドタウンを事例に～』2015 年、横浜市立大学卒業論文
- 2) 横浜市『横浜市統計ポータルサイト』(2016 年 12 月 11 日閲覧) <http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/>
- 3) 西田あかね『子どもの成長と親子の行動パターンからみた子育て世帯の日常的な地域資源の利用に関する研究—横浜市青葉区、西区、金沢区を事例に』2014、横浜市立大学卒業論文
- 4) 大月敏雄ほか『近居：少子高齢社会の住まい・地域再生にどう活かすか（住総研住まい読本）』2014 年、学芸出版社

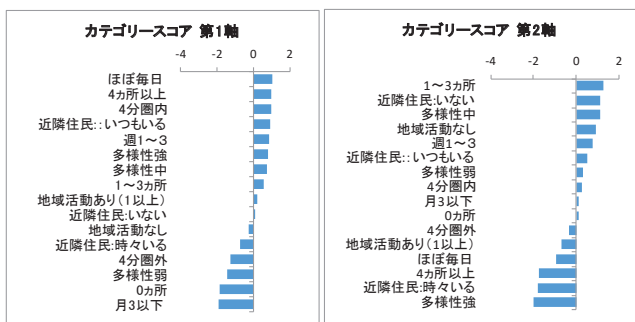


図 4. 数量化三類カテゴリースコア

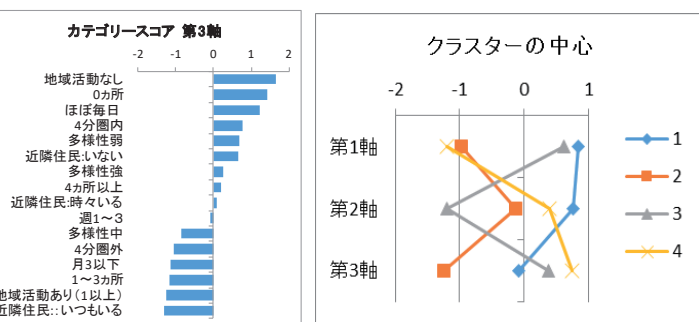


図 5. クラスターの中心の最終結果

表 6. 近居パターン別年代・家族類型、意向との関係

パターン	年代・家族類型					同近居の継続意向								心理的距離感				定住意向			
	類型①-1	類型①-2	類型②-1	類型②-2	類型③	そうしたい	どちらかといえばそうしたい	どちらかといえばそうしたくない	そうしたくない	遠すぎる	やや遠すぎる	ちょうど良い	やや近すぎる	近すぎる	これからもずっと住み続けたい	どちらかといえば住み続けたい	どちらかといえば住み続けたくない	住み続けたくない			
① 親族交流深 ・地域交流多 (n=13)	1	2	1	8	1	4	6	3	1	0	1	6	1	0	2	11	0	1			
② 親族交流浅 ・地域交流中 (n=8)	4	3	0	1	0	2	5	0	0	0	6	1	0	4	4	0	0				
③ 親族交流深 ・地域交流少 (n=11)	2	3	2	2	2	8	3	0	0	0	7	2	0	7	4	0	0				
④ 親族交流浅 ・地域交流多 (n=9)	0	1	3	1	4	4	3	0	1	0	1	5	0	0	4	3	1	0			
合計	3	6	6	11	7	18	17	3	2	0	2	24	4	0	17	22	1	1			

並木ラボ運営に関する提言 ～並木ラボ・CCラボ・UDCICの三拠点の比較から～

150350 塩飽克秀
150365 鈴木梓
150703 山本かえみ

私たち三輪ゼミ二年は、並木ラボのこれからを考えるにあたり、並木ラボと同じような地域コミュニティの活性化という目的をもって活動をしている地域拠点を探し、並木ラボ運営に活かせる点を考えようということでこの調査を始めました。そして今回、私たちは、『並木ラボ』『UDCIC』『CCラボ』の三拠点を調査し、比較してきました。

UDCICとは・・・

福岡市にあるアイランドアーバンデザインセンター！アイランドシティ(福岡市東区照葉)のまちづくり拠点として開設。まちに関わる人々が集いまちについて考えていく場。三輪ゼミ合宿で、ヒアリングをさせていただきました！

CCラボとは・・・

洋光台団地の中にある地域住民活動拠点！多世代交流とコミュニティ活性化を目的に開設された。

↓
並木ラボと似ている！

	UDCIC(アイランドシティアーバンデザインセンター年間報告2014より)	UDCN並木(UDCN並木ラボ活動記録より引用)	CCラボ (tophttp://www.urnet.go.jp/yokodai/activities.html#labより引用)
①目的	・まだ地域コミュニティが醸成されていない比較的新しい地域のまちづくりを行うこと ・質の高い都市空間や魅力的なまちを形成していくこと	・地域コミュニティが既に醸成された比較的昔からある地域で、衰退しつつあるコミュニティを活性化すること	・地域コミュニティが既に醸成された比較的昔からある地域で、衰退しつつあるコミュニティを活性化すること
②運営体制 2-1 構成	□アイランドシティ・アーバンデザイン協議会 運営委員会 事務局 ↓代表者 □アイランドシティ・アーバンデザインセンタースタッフ センター長 副センター長 など	横浜市立大学 地域の方々	□アドバイザー会議 □エリア会議(関係者協議) ↓方向付け・助言 ↑報告・提案 □全体WS(地域住民・活動している方) ↓課題共有・討議 テーマ別A テーマ別B ↑ネタだし 《Cyoaiアクション》
2-2場所の運営 鍵管理	福岡市	横浜市立大学 金沢シーサイドタウン名店会	UR 洋光台団地管理サービス事務所
2-3 事業の運営	アイランドシティ・アーバンデザインセンター	アイランドシティ・アーバンデザインセンター	UR 『ルネッサンス in 洋光台』
③資金面	福岡市	大学COC事業	光熱費・賃料無料 利用料金無料
④場所	福岡市東区香椎照葉3-2-1シーマークビル1F	住宅供給公社 金沢センターシーサイド名店会 の空き店舗	洋光台中央団地13-2号棟の1階
⑤活動日時	【利用時間】 10:00～17:00 【休館日】 土日祝日年末年始	【利用時間】 10:00～17:00 (土)12:00～17:00 【休館日】 年末年始	【利用時間】 9:30～22:00 【休館日】 なし ショートラボ:稼働率72%
⑥活動内容(概要)	街全体を会場に、住民や企業・大学と一緒に楽しいイベントを開催。イベントを通じて、まちへの関心を高め、まちに関わる人を増やしている	地域のコミュニティ活性の拠点となる場の提供 ・地域の方によるカフェ運営 ・医学生による健康講座 ・地域の方によるハーブ演奏	サンモール洋光台の施設2区画を期間限定で提供！様々なイベントなどを開催！ 毎回活動日誌記入→鍵返却時に洋光台団地管理サービス事務所に提出

『CCラボ』にヒアリングに行ってきました！ (2017/2/10 金曜日)
ヒアリングに協力してくださったURの尾神さん、中田さん、澤辺さん、お忙しい中
貴重なお話・ご意見ありがとうございました！

◎CCラボに常勤スタッフはいない！

鍵の管理から掃除まで全て活動団体の人が行っている。
☆常勤スタッフがいなくてラボに入りやすい、活動しやすいのでは？



◎イベント

CCラボだけでなく、地域のコミュニティ拠点・ケアプラザなど周囲を巻き込んで行う。
・ハロウィンパレード
1年目 3000人 2,3年目 5000人に！！



◎これからの並木ラボ運営で活かそうなこと

- ・ まちの人が閉塞感を感じることなく気軽に利用できるように、学生が全く介入しない時間を作る。
- ・ 並木には、既にいくつかのコミュニティが点在しているため、並木ラボはそれらをつなぐ架け橋的存在になる。
- ・ 並木地区にあるコミュニティ拠点や地域住民などが連携し、まち全体で盛り上がるようなイベントを開催する。

まとめ

並木ラボだけでなく、金沢シーサイドタウン全体まで視野を広げて考えることが大切。
もともとある人や技術をうまく活かし、並木地区の活性化につなげていくことが大切。



横浜市立大学地(知)の拠点(COC)事業
 アクティブシニアを増やして元気に暮らし続ける
 ～健康なまちづくり：ヘルシー並木大作戦～
 『健康づくり出前講座』 入場無料

横浜市大COC並木拠点から健康づくりを推進して、アクティブシニアを増やして
 住み慣れた並木で元気に暮らし続けるために、平成28年度 春・夏も新シリーズで毎
 月2回(第2・4金曜)の予定で『健康づくり出前講座』を開講します。

横浜市立大学医学部医学科社会予防医学教室の水嶋春朔教授らによる健康づくりの
 ためのミニ講座と、仕事や家事の合間に簡単にできるミニエクササイズ、個別健康相
 談や血圧測定などを予定しています。皆様の日々の健康づくりにお役に立てれば幸い
 です。お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

平成28年度 春・夏 健康づくり出前講座テーマ(予定)

- 第1回 4月22日(金) 「健康づくり出前講座」新シリーズスタート
- 第2回 5月13日(金) やっぱり大事! 高血圧、動脈硬化、脳卒中予防
- 第3回 5月27日(金) 糖尿病の予防と管理
- 第4回 6月10日(金) 気になる胃腸の調子、腸内細菌って何?
- 第5回 6月24日(金) 夏の感染症・食中毒の予防
- 第6回 7月 8日(金) 熱中症・脱水症の予防

時間：12：30開場 13：00開始 15：00終了(予定)

13：00～13：40 ミニ講座

13：45～14：00 ミニエクササイズ(体操、ストレッチ、ヨガ)

14：10～15：00 個別健康相談、希望者には各種身体測定も・

(血圧測定、腹囲測定、尿中塩分濃度測定など)



★場所：横浜市立大学COC事業拠点
 UDCN並木ラボ(センターシーサイド名店会内)
 金沢センターシーサイド4号棟1階10号
 (横浜市金沢区並木一丁目17番)

★協力：横浜市住宅供給公社

★照会先：横浜市立大学医学部社会予防医学教室

Tel: 045-787-2610、Fax: 045-787-2609

教室代表メール：koushu@yokohama-cu.ac.jp





**横浜市立大学地(知)の拠点(COC)事業
アクティブシニアを増やして元気に暮らし続ける
～健康なまちづくり：ヘルシー並木大作戦～
『健康づくり出前講座』 入場無料**

横浜市大COC並木拠点から健康づくりを推進して、アクティブシニアを増やして住み慣れた並木で元気に暮らし続けるために、平成28年度 冬期シーズンも新シリーズで毎月2回(第2・4金曜)の予定で『健康づくり出前講座』を開講します。

横浜市立大学医学群(健康社会医学ユニット)による健康づくりのためのミニ講座と、仕事や家事の合間に簡単にできるミニエクササイズ、個別健康相談や血圧測定などを予定しています。皆様の日々の健康づくりにお役に立てれば幸いです。お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

平成28年度 冬期 健康づくり出前講座テーマ(予定)

- 第1回 12月9日(金)寒い時こそ気をつけたい! 血圧・脳卒中予防
- 第2回 1月13日(金)冬の感染症予防
- 第3回 1月27日(金)そろそろ花粉症! はやめの準備
- 第4回 2月10日(金)笑って吹き飛ばせ認知症～症状の理解
- 第5回 2月24日(金)ストレスとのつきあいかた
- 第6回 3月10日(金)もりもり食べて元気な体づくり
- 第7回 3月24日(金)ボケたなんて言わせない! 認知症予防



時間: 12:30開場 13:00開始 15:00終了(予定)

13:00～13:40 ミニ講座

13:45～14:00 ミニエクササイズ(体操、ストレッチ、ヨガ)

14:10～15:00 個別健康相談、希望者には各種身体測定も・・・
(血圧測定、腹囲測定、尿中塩分濃度測定など)

H29年

★場所：横浜市立大学COC事業拠点
UDCN並木ラボ(センターシーサイド名店会内)
金沢センターシーサイド4号棟1階10号
(横浜市金沢区並木一丁目17番)

★協力：横浜市住宅供給公社

★照会先：横浜市立大学 医学群(健康社会医学ユニット)

Tel: 045-787-2610、Fax: 045-787-2609

教室代表メール: koushu@yokohama-cu.ac.jp

教室HP URL: http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~p_health/



予約不要
(先着順)
相談無料

横浜市立大学医学部地域看護学教室

スタート!

並木保健室



市大医学部地域看護学教室では、教室員（保健師・看護師）が地域にお住まいの方々の健康や生活に関するご相談をお受けするとともに、地域全体の健康が醸成されることを願い、「並木保健室」をスタートいたします。

並木保健室

会場：UDCN並木ラボ

開催予定

- 第1回 5月 16日(月) 10時~12時
- 第2回 5月 30日(月) 10時~12時
- 第3回 6月 6日(月) 10時~12時
- 以降、毎月第1・第3月曜日 10時~12時

相談無料

各種「前向き」講座も好評開催中！

当日参加も歓迎ですが、準備の都合上、できるだけ事前にご予約ください。

前向き子育て講座



毎月第4月曜 13時～14時30分

次回は
5/28(月)13時～

担当：大河内彩子

地域看護学教室准教授
保健師・看護師
トリプル認定フェシリター

対象：子育てにストレスを感じる方・悩みのある方

子どもの問題行動に困っていませんか？

オーストラリアで開発され、世界17か国で実施されている「前向き子育て技術 トリプルP」を学んで実践してみましょう！

頭と身体の前向き健康チェック講座



毎月第3金曜 13時30分～15時

次回は
6/17(金)13時30分～

担当：有本梓

地域看護学教室准教授
保健師・看護師

対象：原則 40才以上の方

ロコモティブシンドローム、認知機能、健康生活習慣などの健康チェックをとおして、ご自分の健康状態を前向きに見つめてみましょう！

前向き終活講座



毎月第2木曜 13時30分～15時

次回は
5/12(木)13時30分～

担当：伊藤絵梨子

地域看護学教室助教
保健師・看護師

対象：原則 40才以上の方

ご自身やご家族にいずれ訪れる最期に向けた過ごし方について考えたことはありますか？

前向き終活にむけて医療や介護など、さまざまな講話の切り口をもとに一緒に考えましょう！

【会場】 金沢区並木1-17
UDCN並木ラボ 金沢センターシーサイド名店内

【問合せ先】
横浜市立大学医学部地域看護学教室

FAX：045-787-2978 メール：ycu_chn@yokohama-cu.ac.jp

【注意】
並木保健室及び各講座の開催予定は変更になることがあります。その際は並木ラボにてお知らせいたします。



金沢シーサイドタウン並木一丁目第一・第二にお住まいの皆様へ
健康イベント「横浜市立大学医学部地域看護学教室」開催!

12/22 木 午前10時～
11時30分

参加無料

出張並木保健室

対象

どなたでも

担当

白谷 佳恵

地域看護学教室助教
保健師・看護師 ほか教室員

内容

教室員(保健師・看護師)が地域の方々の健康や生活に関するご相談をお受けします。

健康になりたいけれど
何をしたいかわからない!

介護が負担

健康診断結果の見方が
分からない

体重が減らない...

子育てが大変

私達が相談に
乗ります。

+

前向き子育て講座

対象

18歳までのお子さんを持ち、
子育てに悩みや不安がある方

定員

15名

担当

大河内 彩子

地域看護学教室准教授
保健師・看護師トリプルP認定ファシリテータ

内容

子どもの問題行動に困っていませんか?子育てで悩みはありませんか?「前向き子育て技術トリプルP*」で、「ほめる子育て」や「効果的に叱る方法」を学んでみましょう。



*オーストラリアで開発され、世界17国で実施されているプログラム。親の子育て方や精神面が改善し、子どもの問題行動が改善されたことが科学的に立証されています。

詳しくは裏面をご覧ください

どちらも予約不要です!
直接現地集会所に
お集まりください

【会場】並木一丁目第一団地集会所 洋室 (相鉄ローゼン前)

【問合せ先】横浜市立大学医学部地域看護学教室

【FAX】045-787-2973 【メール】yuc_chn@yokohama-cu.ac.jp

「前向き」健康講座 実施内容

前向き子育て講座

日時 2016年 12/22木・2017年 3/17金 午前10時～11時30分
両日とも同じ内容です

対象 18歳までのお子さんを持ち、子育てに悩みや不安がある方 定員 15名

内容 子どもの問題行動に困っていませんか？子育てで悩みはありませんか？「前向き子育て技術トリプルP[®]」で、「ほめる子育て」や「効果的に叱る方法」を学んでみましょう。＊オーストラリアで開発され、世界17国で実施されているプログラム。親の子育て方や精神面が改善し、子どもの問題行動が改善されたことが科学的に立証されています。



担当 大河内 彩子
地域看護学教室准教授
保健師・看護師
トリプルP認定ファシリテータ

前向き終活講座

日時 2017年 1/12木 午前10時～11時30分

対象 原則40才以上の方 定員 15名

内容 ご自身やご家族にいずれ訪れる最期に向けた過ごし方について考えたことはありますか？より良い最期を迎えるために、終末期に過ごしたい場所や、希望する医療や介護について、元氣な今から考えてみませんか？



終活ノート
プレゼント!



担当 伊藤 絵梨子
地域看護学教室助教
保健師・看護師

頭と身体の前向き健康チェック講座

日時 2017年 2/24金 午前10時～11時30分

対象 原則40才以上の方 定員 15名

内容 認知機能、ロコモティブシンドローム[®]などの健康チェックをとおして、健康状態を前向きに見てみましょう！ふだん病院では受けられないチェックです。＊ロコモティブシンドロームとは？「骨や関節、筋肉など体を支えたり、動かしたりする運動器の機能が低下し、移動に障害が出た状態」をいいます。



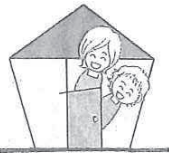
ロコモ予防ノート
プレゼント!



担当 有本 梓
地域看護学教室准教授
保健師・看護師

出張並木保健室&「前向き」健康講座 実施スケジュール

2016	2017	2017	2017	2017
12/22木 出張並木保健室 前向き子育て講座	1/12木 出張並木保健室 前向き終活講座	2/24金 出張並木保健室 頭と身体の前向き健康チェック講座	3/17金 出張並木保健室 前向き子育て講座	



ごちえん
五知縁かふえ

2月の営業日

5日 (日)	10時~17時	
12日 (日)		
26日 (日)	10時~17時 (営業最終日)	★民話の朗読 13:30~ (30~40分程度)

並木ラボでの『五知縁かふえ』は2月26日(日)をもって、営業終了とさせていただきます。
約1年半、ありがとうございました。
今後の活動は未定ですが、近況は裏面のfacebookにてお知らせ致します。

★営業日時は変更する事がありますので、並木ラボの予定表をご確認頂くか、
五知縁までお問い合わせ下さい。

ごはんもの

あまいもの

ごちえん (12:00~)
五知縁ごはん... 650円
野菜と乾物を使った おかずと
ごはん、サラダが盛り付いたワンプレートに
おみそ汁が付きます

シナモンロール... 250円
シナモンたっぷり! スコーンのような
クッキーのようなシナモンロールです
マフィン... 250円
素材の味を生かした素朴なマフィンです

おにぎりとおみそ汁... 350円
全型のりを1枚使って ふんわり
握ったごま塩味のおにぎりです

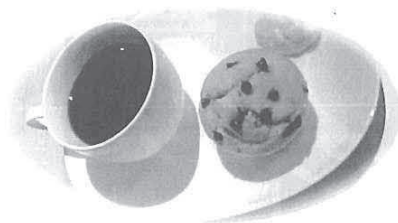
*卵や牛乳・バターなどの乳製品は不使用
(主な材料は小麦粉、オリーブオイル
(豆乳、きび砂糖、ナッパシロップ、ベーキング))

ごはんもの・あまいものをご注文いたしたくと、+150円でおのみものがつきます

おのみもの
コーヒー(温・冷)... 300円
バランス良いブレンド豆をハンドドリップでお入れします
牛乳(温・冷)... 200円
紅茶(温・冷)... 300円
香り豊かな紅茶をミルクがストレートでどうぞ
ジュース... 200円



↑大豆コロッケ



↑コーヒーとチョコチップマフィン

↑カフェ営業中の飲食物の持ち込みは受け付けません

～朗読で巡る～

民話の旅

日本各地に伝わるお話しを、朗読でお届けします。
大人も子供も想像力をフル回転させてお楽しみ下さい。



日 時：2017年2月26日（日）

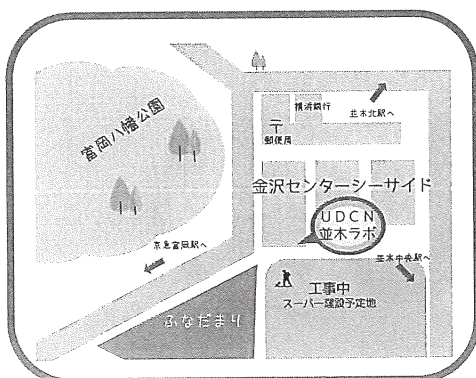
13時30分より 30～40分程度
(途中参加・途中退場可能)

場 所：並木ラボ (並木1丁目センターシーサイド内)

参加費：無料

かたりべ：手塚 祐介さん

(アナウンススクール卒業後、都内の病院などで
朗読の活動をされています)



ごちえん
五知縁

電話：080-7723-5546

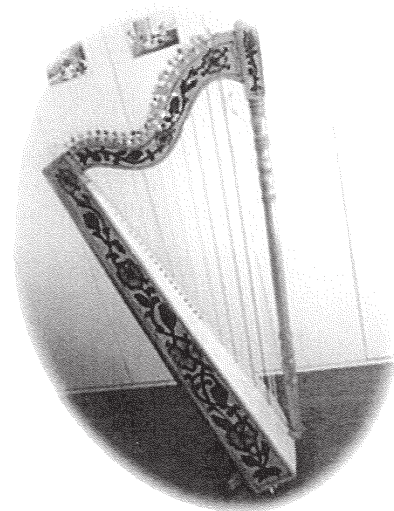
メール：gochien.no.wa@gmail.com

www.facebook.com/gochien



楽譜が読めない方のための

ラテンハープ 体験教室



レッスン開催日

2/1(水)・15(水)・22(水)

3/1(水)・4(土)・11(土)・15(水)・22(水)・29(水)



初めてハープにさわる方のための

体験教室です

- ・プチ体験レッスン (15分) ¥500 (初回のみ)
- ・1日体験レッスン (60分) ¥2000 (初回のみ)
- ・1レッスン (40分) ¥4000 から
- ・1ヶ月コース レッスン2回 ¥8000 から
- ・2ヶ月コース レッスン4回 ¥16000 から
- ・3ヶ月コース レッスン6回 ¥23000 から

【場所】UDCN 並木ラボ ほか2か所

金沢区並木 1-17

(シーサイドライン 並木北駅歩6分)

(京急線 京急富岡駅 徒歩12分)

※体験コース終了後に継続してレッスンをご希望の方はご相談ください。

●ラテンハープ「アルパ」とは？

南米パラグアイの民族楽器。

キラキラと透明感のある音色を奏で

ます。楽譜を使わないので、年齢

に関係なくどなたでも始められる優しい楽器です。

＜お問合せ・お申込み＞

090-9686-0727

info.alice15@gmail.com

横浜ラテンハープ体験教室 アリス Alice

お掃除講座

効果的なお掃除 **3つの要素**で

気持ち良く一年をスタート！



① 講座

② ワークショップ：エコ洗剤作り（お持ち帰り頂けます）

☆日時 1月24日（火） 午前10：30～12：30

☆場所 並木ラボ（OK並木店向かい）



ライフコンシェルジュ 福田

キックオフ!

並木こども哲学

~こどもの「なんで？」からはじめよう~

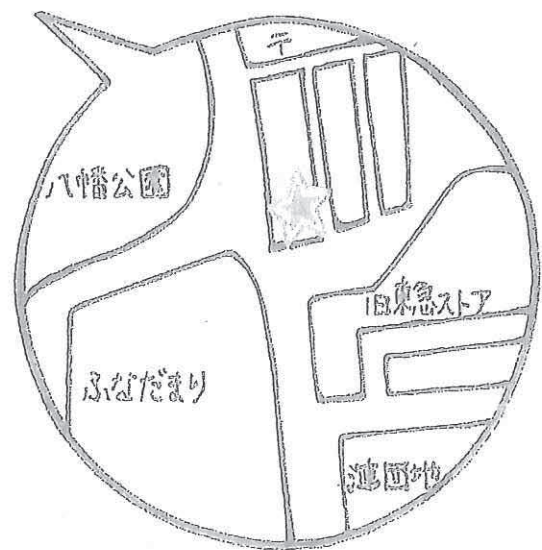
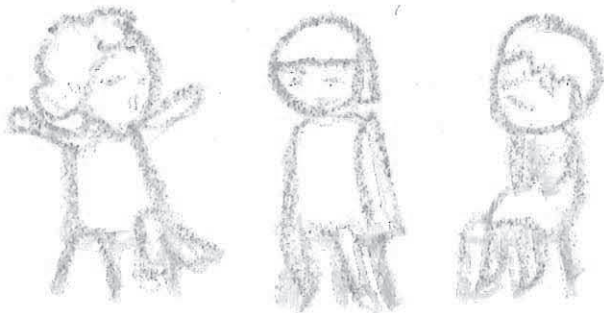


日時 1月21日(土) ごご13:30から

対象 未就園児、小学生までのお子さまとおうちの方
(兄弟姉妹の参加可、育孫中の方大歓迎☺)

場所 並木ラボ(並木1丁目センターシーサイド内)

参加費 無料



連絡先 笹浪(ささなみ)

☎090-5571-7755

✉katafu.databank@gmail.com

つうじ

ただいま～

2015年10月から11回行われた並木こども哲学。少しお休みしていましたが、ついに来年2017年1月21日から再開です。…ところで、子ども哲学ってなんだっけ？

子ども哲学とは、みんなで絵本をよんで、絵本にかくれている「？」やおもったことをみんなではなしあって、みんなで考えること。

たとえば、絵本をよんで「なんでレッド（登場人物）はおこりんぼうなの？」とみんなに「？」を聞いたり。あるときは「いいかんじ」とニヤリとしたり。またあるときは「サンタは1人しかいない！」と「サンタはたくさんいる！」がぶつかったり。ときには「みんなで考えないとなぞはとけないよ」と聞いていたおとながはっとしたり。子どもたちが一さつの絵本から、おもいおもいにあーだこーだはなしあう。子どもの声がひびく、たのしくてふかい哲学の時間が毎月第3土曜日、並木ラボに帰ってきます。

絵本をもとに哲学をする子どもたちは、おとなが思う以上にいろんな顔をみせます。自分の意見をはっきりとつたえる子。一点をみつめてジッとだまる子。おはなしするのがはずかしくてお母さんにそっと耳打ちをする子。ぼつりぼつりと自分の言葉をつむいでいく子。どの子も素敵です。子ども哲学では、なにをはなしなくても、そしてなにをはなさなくても大丈夫。おうちで絵本をよむときとはちょっとちがう子どもの顔をみてみませんか？来年1月21日土曜日、並木子ども哲学でお待ちしています。

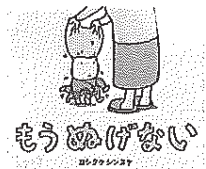
再開準備号

2016年12月5日

発行

文責 ささなみ

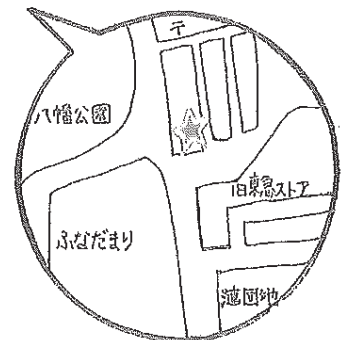
まえによんだ絵本



ヨシタケ シンスケ

『もうぬげない』

ブロンズ新社 980円+税



ここでやっています

並木ラボ (並木センターシー
サイド内)

毎月第3土曜日13:30～

こんな人がやっています

ささなみ



並木一丁目に住む、商店街によくいる人。ふとしたきっかけでこども哲学に興味を持ち、関連するNPO法人の哲学対話のファシリテーター講習を受けた。その経験を活かして2015年10月より並木こども哲学の代表となる。最近「どうして？」を連発する3歳の娘とやっどこども哲学をはじめたところ。10月に生まれた男の子もいずれは小さな哲学者になって目指せウンチク家族ならぬ哲學家族。

お問い合わせ katafu.databank@gmail.com

並木にお住いの
シングルママさん
シングルパパさん
並木ラボに来ませんか？



はじめまして。シングルマザーのバクです。
 クリスタルコーティングというお仕事をしています。
 裏面の時間帯に「並木ラボ」へいらっしゃいませんか？
 この「並木ラボ」がシングルママ・パパの息抜きの場にな
 ればいいなと思っています。コーヒーと紅茶をご用意して
 お待ちしています。

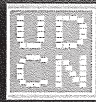
クリスタルコーティングのお客様がいらっしゃるときは、お客様優先での対
 応となります。キッズスペースもありますのでくつろいでくださいね。

この事業（クリスタルコーティング）は、一般社団法人日本シングルマザー支援協会が「自分のライフスタイルで選べる仕事の提案」の事業で、本業・副業・空き時間だけなどメンバーが助け合いながら出張施工・イベント出店・取扱店舗の開拓などを行っています。

日本シングルマザー支援協会は、【お金を稼ぐ力を養う】【共感しあえるコミュニティ】【再婚という幸せ】の3つの柱を実現します。シングルマザーが本当の自立を手に入れるための場所。就職・転職がうまくいく「年収アップ」、仲間が増える「コミュニティ」、人間関係が円滑に「コミュニケーション力」を提供します。詳細はホームページをご覧ください

一般社団法人日本シングルマザー支援協会 <http://シングルマザー協会.com/>
 クリスタル・コーティング・サロン事務局 <http://cc-salon.net>





並木ラボ

Urban Design Center NAMBLA

からのお知らせです

スマホ・メガネをお持ちの方

最先端の技術でスマホやメガネを守ります

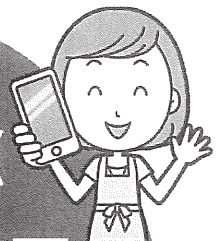
■スマホ ¥3240

落としても割れにくい
汚れやキズがつきにくい
フィルム不要で反応が早い
画面がクリアで見やすい

■メガネ ¥4320

毎日のお手入れが簡単
疲れにくい 視界スッキリ

合格



並木ラボ

出店記念

ワンコイン 500円 キャッシュバック

シニア(60歳以上)・学生さん

子育て中のママさん

限定



防弾ガラスが誕生した溶剤を塗布
スマホ画面は施工時間 10分
すぐにご使用になれます

画面の強度がアップ → 最高高度9H
衝撃に強い → JIS耐衝撃テスト最高値

■採用実績

大手携帯ショップ 2400店舗施工 30万台以上
エステサロン・ネイルサロン
大手ホテルチェーン等

2月14日(火)・28日(火) 13:00~17:00 並木ラボ

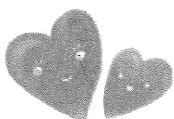


クリスタル・コーティング・サロン バク
お問合せ・出張施工のご依頼は
baku@cc-salon.net
ブログ <http://ameblo.jp/ccs-baku>



丁寧な施工が好評で大好評、施工者のバクと申します。“ふなだまり”にはカワイイ野鳥がたくさんいます。オーケーの目の前ですのでお買い物の際にお立ち寄りください。

並木にお住いのシングルママさん・シングルパパさん



裏面をご覧ください

UDCN並木ラボ発！

並木のまちを一緒に盛り上げよう♪

地元が好き！！

イベントを企画
してみたい！

地域で活動し
てみたい！



面白いこと
が大好き！

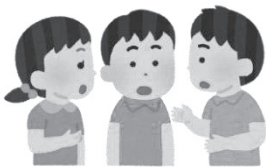
毎日の生活にもっと
刺激が欲しい・・・！

並木在住・在学
小中高生集まれ！

なみキャン

せっかく並木にいるのならもっといいまちにしてみない？並木、金沢区を盛り上げよう！
いったい何をすれば良いまちになる？アイデアはきみ次第。一緒に全力で活動してみよう！

なみキャンの流れ



何をするか話し合おう！



イベントを企画して楽しもう！



成果発表！

少しでも気になったら・・・

水曜・木曜15:00～17:00 UDCN並木ラボへ！！

(第3水曜・第4木曜は15:00～20:00)

担当:横浜市立大学三輪研究室 田中・佐藤

Email: namicanpj@gmail.com

電話: 045-349-5665(毎週水曜・木曜15:00～17:00担当者がいます)

なみキャンって…？

地域のイベントに出展したり、季節に合わせたイベントを企画・運営する団体です！
自由な発想を活かして金沢シーサイドタウン、金沢区全体を盛り上げよう！

なみキャンスケジュール(予定)

- 夏 サマーフェスタへ出展
- 秋 ハロウィンイベント カナカツ秋まつり
写真まちあるき
- 冬 もちつき大会、灯ろうづくり 活動発表会

対象年齢

並木在住・在学の小学生・中学生・高校生
※大人サポーターも大募集！



なみキャンに参加すると…



友達が
たくさんできる



地域の人との交流



ボランティア・
自由研究に使える



地域のことに詳しくなる

なみキャンではこんな人を募集しています♪

- ・地域を良くしたい！
- ・なにかに熱中して取り組みたい！
- ・楽しいことがしたい！！

参加待ってます！！

なみキャンはUDCN並木ラボを拠点に金沢シーサイドタウン、金沢区を活性化することを目標としています。
青少年の社会参画を促し、社会での成長を図ります。また、青少年の力を地域で活用することにより、より良いまちへと変えていきます。

サマーフェスタ 並木ラボオープンday

サマーフェスタは毎年夏に催される金沢シーサイドタウン恒例のお祭りです。たくさんの方が集まり、数々の屋台の出店・イベントが行われ盛り上がります！並木ラボでも様々な企画がありますので是非お越しください！企画のない時間でも休憩所として開放しているので気軽に涼みにお立ち寄りください！お待ちしております！

8月1日、2日 10時から

カナカツ企画

金沢統一ゲーム

1回目 16時半～17時

2回目 17時半～18時

金沢区を中心に青少年の居場所づくり活動を行っているカナカツが企画したゲーム！自分のまちをどれくらい知っているかな？

五知縁かひえプロデュース

落語の会

8月2日 13時半～

演目「牛ほめ」

与太郎は世間様からバカにされている。それを見てお父さんは褒められるようなことをさせようとおじさんの新築の家と飼っている牛の褒め方を教えるが与太郎は…？

薬局とないの 店舗にて

10時～

- ▼お孫さんとのお出かけについて教えてください！
- ▼まちの中の“緑”についてお聞かせください！
- ▼昔の写真を見ながらまちの思い出をお話しませんか？

子ども カクテルバー

8月1日、2日

15時～17時

ジュースを使ってオリジナルカクテルをつくろう！

1杯 50円

なみキャン★

リアル金沢統一ゲーム

～ハロウィン仮装パレード～

日時：10月31日(月) 15:30受付開始
16:00出発～18:00

集合場所：UDCN並木ラボ

(住所：金沢区並木1丁目17街区金沢センターシーサイド名店会)

対象年齢：小中学生・未就学児は保護者同伴

★仮装してきてね！大人の参加も待ってます

ミッション型ボードゲーム・金沢統一ゲームの
主人公になりきって一緒に歩こう♪
仮装をして合言葉を唱えればいいことがあるかも…？

ルート

ラボ→ほしあみ公園→ピアレ横浜→らしく並木→
並木家→富貴→熊谷商事→仲はら→葉隠→ラボ

Happy
Halloween!

金沢統一ゲームとは・・・

金沢区の子どもたちと一緒に作った、ミッション型ボードゲーム！！
マニアックなネタが満載なので意外な一面が知れるかも！？
ゲーム作成の様子が今年度1月NHKの「ひるまえほっと」で放映されました☺



問合せ：以下のアドレス、電話番号にお問い合わせください

Email: namicanpj@gmail.com (なみキャン担当：横浜市立大学三輪研究室 田中 佐藤)

電話：045-349-5665 (毎週水曜・木曜15:00～17:00担当者がいます)

共催：UDCN並木ラボ これからの並木を創る会 NPO法人らしく並木

協力：金沢シーサイド名店会

なみキャン☆

バレンタインラッピングづくり☆

日時: 2月11日(土) 10:00~12:00

※受付開始9:30より

場所: UDCN並木ラボ

(住所: 横浜市金沢区並木1丁目17金沢センターシーサイド名店会)

☆当日参加OK! 遊びに来てね!

好きな柄の折り紙で、
世界にひとつだけの、自分オリジナルの
バレンタインラッピングを作ろう♪
アレンジしだいでいろいろなラッピングが
作れちゃうよ♪今年のバレンタインは全部
手作りしてみよう☆

少しでも気になったら...

水曜・木曜15:00~17:00 UDCN並木ラボへ!!

担当: 横浜市立大学三輪研究室 田中・塩飽・山本

問合せ: 以下のアドレス、電話番号にお問い合わせください

Email: namicanpj@gmail.com

電話: 045-349-5665(毎週水曜・木曜15:00~17:00担当者がいます)

平成 28 年度 PIA フェスタ「まちづくりデザインゲーム@Cross Meeting」

活動報告

実施日：平成 28 年 10 月 22 日 13:00～15:00

横浜市立大学 中西ゼミ

▼準備・受け付け時の様子



当日は事前に声をかけていた参加者の他に、飛び入りで東京理科大学学生からの参加があるなど予定より活気のあるものとなった。

▼ゲーム中の様子



▼第1テーブル

参加者

第1ゲーム

企業	2名
市大生	2名
関東学院生	1名
理科大生	1名

第2ゲーム

企業	2名
市大生	2名
関東学院生	1名
理科大生	1名

ゲームの様子

第一ゲームの際はゲームの要領を理解するところから始まったが、プレイヤーはすぐに慣れたようでテンポよくアイデアが出されていった。出されたアイデアに他のプレイヤーが感心する場面が見られるなど、和やかな雰囲気で行われた。

第二ゲームになると出されるアイデアが洗練されてきて、票がばらけることも多くなった。アイデアを提案する際の理由付けも柔軟な発想から説得力のあるプレゼンをしていた。ただし、両ゲームを通して、産業団地というフィールド、役割のキャラクター、手持ちのアイテムカードのすべてを複合的に活用することが難しいようでもあった。

マトリックスでの意見交換においては、企業の方からは地元内外の人にもっと産業団地を知ってほしいという意見が、学生からは初めて訪れた場所だったがユニークで知ることができて良かったという意見が出た。このことから普段ならばつながりのない両者でも歩み寄れる接点があるとわかり、産業団地の更なる活性化の糸口にもなりうるヒントを得ることができた。産業団地エリアを訪れたことがある学生からは、歩いて楽しい工夫があるともっと良い地域になるのではという感想が出たが、八景島というアミューズメント施設や海辺の散歩道など人々が集い、楽しむ場と近接している特徴からも、実際にゲーム内で類似した提案が出されているように、そのような歩行空間の創出は一つの重要な発想であると結論付けられる。

出されたアイデア

～地域のイメージアップ～

- ・水辺空間を活気づける
- ・カフェ、マルシェ等の小さな商業施設をつくる
- ・展望台を設置しシンボルにもなる人の集まる場所とする
- ・スタジアムをつかって人を集め、賑わいを創出する
- ・景観のよいまちにする

- ・ゴミ箱を設置し衛生と美観を維持する
- ・時計台を設置する
- ・夜景の綺麗な空間をつくる
- ・充電スポットの設置
- ・駅の近くに商店街をつくる
- ・仮装イベントの実施

～地域内のつながり・連携強化～

- ・地域住民が交流できる花火大会の開催
- ・遊覧船を運行する
- ・花火大会の際に望遠鏡の貸し出す
- ・ステージをつくり定期的にイベントを行う
- ・みんなが集まれる憩いの場をつくる
- ・バーベキューエリアをつくる
- ・ベンチを設けゆったりと過ごせるようにする
- ・PIA フェスタなどを通じてまちを活性化させる
- ・夜景スポットをつくる
- ・レジャーシートを敷いて家族で座れる場をつくる
- ・セグウェイの試乗
- ・コミュニティカフェを運営する
- ・バーや居酒屋を誘致する

～公共空間の魅力ある活用方法～

- ・歩行空間を楽しく美しくする
- ・植物のトンネルを設置する
- ・ハンモックをつくる
- ・駅前の空間を発展させる
- ・駅前に花畑をつくる
- ・駅前にスピーカーを設置し音楽のある空間にする
- ・自転車が収納できる場所を増やす

～環境・空間の維持・向上～

- ・必要箇所に手すりを付けバリアフリーを促進する
- ・安全な歩行空間のため信号機を増やす
- ・ATM の設置
- ・ポスター、掲示板等を設置し情報交換を促す
- ・太陽光パネルの設置
- ・緑地の整備を進め気軽に散歩できるようにする
- ・街灯、ゴミ箱、ベンチなどが揃ったポケットパークをつくる

▼第2テーブル

参加者

第1ゲーム

企業	2名
市大生	1名
関東学院生	1名
理科大生	2名

第2ゲーム

企業	2名
関東学院生	2名
理科大生	2名

ゲームの様子

第1ゲームの様子は、最初初めてのデザインゲームということもあり、表情が固く、ゲームの流れについていくのがみんな必死であった。設定したキャラクターになりきることを強調して説明すると、そのキャラクターとしての発想を各々考えて発言している様子が見受けられたのがよかった。東京理科大学、および関東大学の学生は、産業団地に詳しくないため、企業の方々がやはり先導してゲームを楽しんでいる雰囲気があった。

第2ゲームでは、第1ゲームで流れを把握しているのでみな単純にゲームを楽しんでいる様子があった。「親」のテーマ設定も第1ゲームと比較して産業団地におけるまちづくりを意識したものになっており質が上がっていた。ただ、手札のアイデアカードを、「設ける」側の発言が多く、もう少し柔軟に考え、廃止案やそれをどういう風に活用するかを具体的にしたアイデアでもよかったと思う。

マトリックスでの意見交換では、主に企業の方々が話していた。産業団地には結局何が必要なのかという話になった際には、「車が多くて妊婦や子供が歩くには危ない」という意見や、「歩いていて楽しくない」とい意見が出た。東京理科大学の学生は、「東京からくるには交通の便が悪すぎる」との意見もあり興味深かった。第1ゲーム、第2ゲームを通して場の雰囲気が和らぎ、意見交換は各人が思った率直な意見が聞けたように思う。

出されたアイデア

～地域のイメージアップ～

- ・ 共通の目印として時計台を置く
- ・ 街頭で街を明るくする
- ・ LED クリスマスツリーで地域の名物にする
- ・ 緑や海を眺められる展望台を作ることによって地域に愛着を持たせる
- ・ セグウェイを利用することで観光客を呼ぶ
- ・ おしゃれなバーをつくり、夜のデートスポットにする

～地域内のつながり・連携強化～

- ・公園でBBQをすることで地域の住民間でのつながりを育む
- ・子供の教育として屋外教育をする
- ・スピーカーを通して放置自転車撤去の呼びかけをする
- ・足湯でコミュニティスペースを確保
- ・憩いの場所としてコミュニティカフェ（犬も連れていける）
- ・子供も連れて見に行ける屋外ライブを開催して人を呼ぶ
- ・居酒屋に人を呼び、集まることでまちにスペースを作る
- ・パーゴラで天気がいい日には外に出る

～公共空間の魅力ある活用方法～

- ・太陽光パネルを道路に敷き詰め、子供のために光熱費を削減しお金を作る
- ・空いたスペース活用としてテーブルを用意し、休憩の場にする
- ・ステージに有名なアーティストを呼び公共空間を活性化
- ・子供のためにベビーカーで通れるゆとりある道を作る
- ・電気自動車専用の駐車場を作る
- ・一日の疲れを癒すために露天風呂を作る
- ・消火器を地中化し、まちにスペースを作る
- ・学校帰りに植物トンネルを通りながら、自然を感じたい
- ・ウッドデッキを公園内に作成し、子供ときた親も過ごしやすいスペースを作る
- ・クリスマスツリーを作り、まちの名物にする

～環境・空間の維持・向上～

- ・道路にタイルを敷き詰め、過去や未来を表現するような模様を描き、歩くだけで楽しいまちを作る
- ・観光地にバリアフリーは必要なので、観光地には手すりを付けるべき（弱者に対して）
- ・人を呼ぶ観光地には、Wi-Fiをたくさん用意する
- ・緑を豊かにするためにも、植物トンネルを作るべき
- ・排ガスを出さないセグウェイでの移動により、環境にやさしい移動方法にする
- ・清潔なトイレをつくる
- ・観光地の近くには、コンビニやトイレが必要
- ・外灯を1m感覚でもいいので設置し、安全を図るべき
- ・竹林の散歩コースで緑を感じる

～その他のアイデア～

- ・屋内においてパソコン設置しフリーのワークスペースを確保する
- ・季節に合わせてレジャーシートを用意し、公園に設置する
- ・アクセスがいいように橋を作る
- ・ししおどしで自然を感じる
- ・お化け屋敷を作り、人を呼ぶ
- ・夜は花火で人を呼び、夜はシニアも参加できるような仮装フェスタを催す

- ・公園内に相撲ができる土俵をつくり、人を呼び込む
- ・人力車で人を呼ぶ、ゆったりとまちを眺められるようにする
- ・駄菓子屋
- ・託児所を駅前につくり、利用しやすく
- ・茶室をつくることで子供たちに和を学んでもらう
- ・望遠鏡設置でデートスポット作成

▼第3テーブル

参加者

第1ゲーム

企業	1名
市大生	3名
理科大生	1名

第2ゲーム

企業	1名
市大生	2名
関東学院生	1名
理科大生	1名
区役所	1名

ゲームの様子

第1ゲームは初めてという事もあり手探りな様子であったが、学生が積極的に発言していた。キャラクターを忘れてしまったり、アイテムを設置するまでで提案が終わってしまっていたので、このアイテムを設置してどうするのか、どのような効果を期待しているのかまで考えてほしかった。テンポよく意見が出され、プレイヤーの柔軟性が見て取れた。

第2ゲームではゲームに慣れてきたこともあり、楽しみつつ、使いにくいツールカードにも積極的に挑戦している姿が見られた。またアイデアを出す際に、すでにでたアイデアとの相乗効果をもたらすような意見を提案するなど、今までには見られなかった良い楽しみ方をしていた。キャラクターカードへも意識が回るようになっており、1回目に比べゲーム内容は向上していた。

マトリックスを用いた意見交換では企業の方が中心となり、アイデアをさらに発展させたアイデアや、どう活用したらよいかについての討論があった。レンタサイクルは意外と産業団地には需要があるのではないかと、車が移動の基本であることから歩くには少々危ない、など様々な意見が聞かれた。産業団地周辺に土地勘のない学生たちもその話を聞き、それを踏まえより深い議論をしていた。

出されたアイデア

～地域のイメージアップ～

- ・ポスターで海や公園の情報を発信する
- ・ベビーカーの無料貸し出しサービス
- ・ちょうちんを設置する事で明るさをプラス
- ・車イスの方でも楽しめる公園の設備を考える
- ・地元で評判となるような夜景スポットを作る
- ・橋を作る事で景色をもっと楽しんでもらう
- ・映画の上映会を定期的実施する

～地域内のつながり・連携強化～

- ・弁当販売を設置する
- ・駄菓子屋を残す→食べ歩きも出来ると同時にまちの散策もあわせて出来る
- ・時計台にSOSボタンを設置する
- ・大人同士の交流を促すという意味で居酒屋を活気づける
- ・屋外教室で工場の社会見学の実施

～公共空間の魅力ある活用方法～

- ・植物トンネルによりまちを涼しく
- ・特設ステージを設けて色々な催しを企画する事によってまちを盛り上げる
- ・信号を減らして交通の便をもっとスムーズに
- ・動物も連れて行けるコミュニティカフェを作る
- ・健康維持のためにジムを置く→ストレス発散にもいい
- ・セグウェイの導入→移動が楽になる
- ・ベンチを設置して休憩出来る場所を増やす
- ・人力車タクシーの導入

～環境空間の維持・向上～

- ・ごみ箱を置き清潔なまちにする
- ・花畑で心を穏やかにする
- ・公園以外の場所にも水飲み場を設ける
- ・自然の中でバーベキューを楽しむ
- ・植物トンネル→癒しの空間
- ・標識に花壇があるスポットを入れる

～その他様々なアイデア～

- ・望遠鏡でまちの観察兼安全を見守る
- ・露天風呂の設置により今までまちに無かった雰囲気を生み出す
- ・ガチャガチャの設置で子供のハートを掴む！
- ・ワイファイスポットの導入

コレナミ通信 掲示

これからの並木を創る会 2016 年度住民集会

親子で
楽しく

並木クイズウォーク!!

～楽しみながら並木の魅力を知ろう～

☆クイズ形式で楽しみながら、知っているようで知らない並木の公園や緑地を見て歩きましょう!

☆大人の方のみのご参加も歓迎です!

2017年2月18日(土)10:00～13:00

集合場所：シーサイドライン幸浦駅改札前

内容：

- グループに分かれてまちあるき。
公園などで、場所の解説とクイズ出題。
今回は3丁目から2丁目に向かいます。
- 連合自治会館(ふなだまり脇)で交流会。
軽食を食べながら、答え合わせと解説。

参加費：無料 人数：先着 50 名

申込先：NPO 法人「らしく並木」

FAX：045-791-7691

メール：rashikun@nifty.com

郵便：〒236-0011 金沢区長浜 106-8

金沢スポーツセンター内オフィスかなざわ

問い合わせ先：コレナミ並木みらい会議（福島 090-8045-2498）



並木の公園やみどりを一緒に見て回しましょう!

■対象地区(横浜金沢シーサイド地区)の概要と特徴

- ◇ 産業用地の創出等を目的として作られた埋立地。主要部は横浜市六大事業（1965年提唱）のひとつ。
- ◇ 臨海側は、市内の工業の移転集約、現みなとみらい21地区に存在していた三菱造船の移転先幹旋（成しはせず）のため造成され、今日でも重要な位置と量を占める産業団地。
- ◇ 既存市街地との緩衝・居住地確保のため住宅地区「金沢シーサイドタウン」も整備。横浜市の積極的な都市行政が反映された、アーバンデザインの先進事例。
- ◇ 富岡八幡宮などの地域資源が存在し、古くは景勝地・日本海水浴発祥の地の云われ等もあり、今日でも海の公園や八景島、マリナー等を抱える、環境・アメニティ・アミューズメント機能をも備えた地区。



■現状と課題

- ◇ 成熟・低成長社会、人口減少・高齢化の進展により、産業団地・住宅団地ともに衰退の傾向がみられる。産業団地は企業の撤退や業種業態の変化、住宅団地は高齢化・人口減少が顕著。
- ◇ 都市ストック（基盤、建築物等）の老朽化。
- ◇ ユニバーサルデザイン化等、高齢化・ライフスタイルの変化に合わせた住環境の改善の必要性。
- ◇ 産業団地と住宅団地間あるいは団地内各地区の空間的・コミュニティ的な分断。
- ◇ 環境未来都市の構成要素がすべて存在しているが、連携が不十分であり、実現には努力が必要。
- ◇ 企業・居住者の誘致を図りたいが、地区外でのプレゼンスが低く、当地区の環境の良さが知られていない。



多分野・地区間の連携、環境未来都市・職住近接地域の実現、地域ブランディング等の必要性

■エリアマネジメント体制構築構想

- ◇ 上記の課題解決には、シーサイド地区の一体的な**エリアマネジメント**※を推進することが望ましい。
※ 地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取り組み。（国土交通省「エリアマネジメントのすすめ」より）
- ◇ 産業団地には一般社団法人横浜金沢産業連絡協議会他の組織が産業環境の整備や発信を進めている。
- ◇ しかし居住・商業・アメニティ地区については各種主体の連携体制はない。



居住地区＋アメニティ地区を対象としたエリアマネジメント組織の立ち上げ。

「(仮称)一般社団法人(あるいはNPO法人)横浜金沢シーサイド」

- 地域に関係する複数の主体の参画による法人格を持った組織。
- 参画主体が資金・人材・事業ノウハウ等を持ち寄って運営。

産連協等と連携して横浜金沢シーサイド地区全体のエリアマネジメントを展開

■エリアマネジメント組織の役割と活動

「横浜金沢シーサイドの[魅力を／人を／活動を]、集める、育てる、発信する」

- ① 地域情報（暮らし、地域の魅力）の流通
情報発信（WEB、情報紙などローカルメディアの立ち上げ）／地区内の提携（住居地域と産業団地など）
- ② 活動主体・住民の交流促進
イベント開催／住民（コレナミ等）の活動支援／地域に関するセミナー・勉強会開催

③ 地域ブランド創出

地域情報の発信・広報／イベント開催／都市づくり本出版等

④ 居住支援（居住者・個人レベル）

就労・居住のマッチング事業／住み替え支援／モビリティの改善調査・提案

⑤ 環境整備支援（地区・街区レベル）

ストック（インフラ・建物）老朽化の実態調査／管理組合の活動調査・支援／環境整備ビジョン作成／不動産資産のマネジメント支援／（ゆくゆくは）建て替え・リノベーション支援

※ 地域内の魅力向上のみならず地域外への発信や連携も積極的に進めて「横浜金沢シーサイド」の知名度・存在感を上げ、「住み場所／働く場所」を検討する際に名前が挙がるような状況を作り出す。

※ すべての活動を一気に開始することは困難であり、順を追って展開する。

1年目：①②③に関わる具体的事業から活動を開始し、継続的に拡充していく。具体的には、ローカルメディアの立ち上げ（WEB 設置・情報紙発行）と小規模イベントの試行、地域活動支援

から。その後2、3年かけて大規模イベント開催等

2～3年目：④⑤の調査・体制づくり・具体事業を順次開始

※ 特徴ある地域属性・地域の資産を活かし、地区内外両面をターゲットとした、産業団地・住宅団地連携によるエリアマネジメントの先進事例（エリアマネジメント横浜金沢モデル）を目指す。



■居住・アメニティ地区のエリアマネジメント組織の体制

□ 想定される参画・協力主体

- 地元住民組織（連合自治会、地区社会福祉協議会、NPO 法人、管理組合連絡会等）他、新しい活動主体の掘り起こし
- 株式会社横浜シーサイドライン
- 株式会社横浜八景島
- 独立行政法人都市再生機構
- 横浜市住宅供給公社
- 公立大学法人横浜市立大学
- 京浜急行電鉄株式会社・京急不動産株式会社
- 三井不動産株式会社（アウトレットパーク横浜ベイサイド運営）

□ 設立後の連携先

- 横浜金沢産業連絡協議会、横浜金沢団地協同組合、横浜ベイサイドマリーナ地区街づくり協議会等

■その他（検討課題等）

- UDCN 並木ラボは、「アーバンデザインセンター」の理念に則り、エリアマネジメントの組織的・物的拠点とする。
- 実効的な運営体が必要。定期的な協議の場だけでなく、たとえば参画主体よりタウンマネージャーを出し合う等。
- 地区内のコミュニティ活性化における「これからの並木を創る会」との連携方法。



■外部の他組織との連携企画

- UDC（アーバンデザインセンター）ネットワークへの参画 <http://www.udck.jp/network/>
- 多世代居住まちづくり推進事業地域支援検討会議への参加・施設紹介
(神奈川県県土整備局建築住宅部住宅計画課)
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6631/p829486.html>
- 男女共同参画関連調査（ココチャレ）主婦ヒアリングへの協力（男女共同参画推進課）

■情報発信・メディア掲載一覧

- 4/ 7 タウンニュース「人物風土記（福田美保子さん…ラボで掃除等の相談室）」
- 5/ 5 タウンニュース「コミュフェス 2016 地域・大学・企業が連携」
- 7/ 3 読売新聞「若者世代の転出 横濱でも」
- 10/6 シーサイドライン沿線ニュース秋号「並木の未来を共につくる」
- 1/19 シーサイドライン沿線ニュース冬号「出張並木保健室」スタート
- 2/15 日本経済新聞「金沢区団地再生で協定 横浜市大と市住宅公社」

事業や調査研究を行うにあたり、ご協力いただきました関係者の皆様そして金沢シーサイドタウン在住の皆様には深く感謝いたします。

◆UDCN 並木ラボ

横浜市金沢区並木一丁目 17

金沢センターシーサイド名店会

Tel&Fax 045-349-5665

<http://www.facebook.com/namiki.ycu>

◆横浜市立大学 COC 事業担当窓口

研究基盤課地域貢献担当

横浜市金沢区瀬戸 22-2

Tel&Fax 045-787-2205

Email coc@yokohama-cu.ac.jp

<http://www.ycu-coc.jp/>